

■ グループ紹介

住友ベークライト株式会社

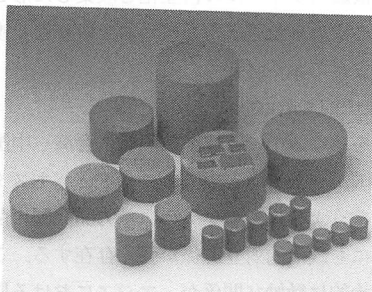
プラスチックの中で最も歴史の古い「ベークライト」(フェノール樹脂)を日本で最初に作ったのが当社です。発明者のベークランド博士の親友であった高峰讓吉博士が、特許権の実施許諾を得て、三共(株)の品川工場で試作を開始したのが明治44年(1911年)です。その後、昭和7年(1932年)にベークライト部門が独立して、日本ベークライト(株)が設立され、昭和30年(1955年)に住友化工材(株)と合併して、住友ベークライト(株)になり、今日に至っています。

この間、常にプラスチックのバイオニアとして、次々に新しい技術開発を行い、電子材料、工業材料、生活関連等の広い分野で、安全で快適な生活環境づくりに貢献しています。

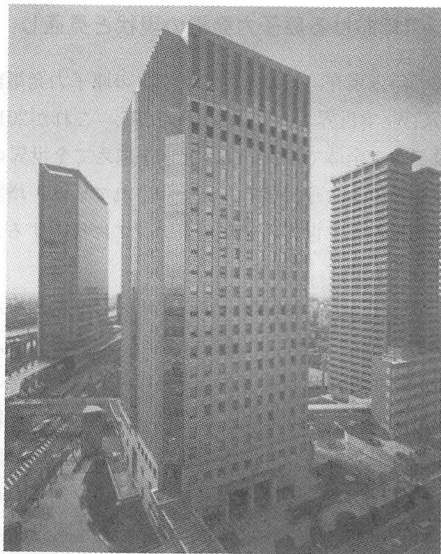
主な事業分野は、半導体実装関連プラスチック材料、回路基板材料及び回路基板、成形材料・成形品、工業用フェノール樹脂、食品・医薬品包装材料、医療器具、建築資材等です。

資本金は243億円、従業員数は2360名、96年度の売上高は単独で1230億円、連結で1900億円です。電子・電気材料分野の製品が全売上高の60%以上を占め、自動車・車両、医療、包装、建築・家具等の分野の製品がほぼ同等の比率で売上げに貢献しています。

世界市場でシェアの高い製品の例として、半導体封止に用いるエポキシ樹脂成形材料、回路基板に用いるフェノール樹脂積層板、自動車部品等に用いる金属代替フェノール樹脂成形材料等があります。



エポキシ樹脂半導体封止材のタブレット



本社ビル

全売上高に対して新製品の売上高の占める比率は約30%ですが、新製品の売上高の比率を更に高め、「プラスチックに機能を与えること」を目指した新製品・新技術の開発に努めております。

主な研究開発の拠点には、横浜及び神戸の基礎研究所、神戸の生産技術研究所、各地区の工場に付属する研究所として、宇都宮及びシンガポールの電子デバイス材料研究所、静岡の硬化性樹脂研究センター内にある回路材料、成形材料・加工、工業樹脂の3研究所、尼崎の可溶性樹脂製品研究所、秋田のメディカル研究開発センターがあります。

当社は、研究開発型国際企業への脱皮を目指して、コア事業の技術強化、国際競争力を持つ独創性の高い新製品及び革新的な新生産技術の開発に注力しており、地球環境問題への対応のため、製品のリサイクル技術、省エネルギー・CO₂低減を目指した新しい生産技術等の研究にも今後、積極的に取り組む方針です。

所在地：〒140 東京都品川区東品川2-5-8

(文責：技術部技師長 三木 恭輔)